



## 進化するこども病院の 感染管理

理事長・院長 今泉 益栄

最近の疾患別入院の推移をみると、予防接種の普及で感染症による入院患者が著明に減少していることが分かります。さらに、今年(2018年)4月、適正な抗菌薬使用の取組みに対して診療報酬加算が新設されました。社会の動きは、治療から予防へ、抗菌剤の適正使用へ確実にシフトしています。

この様な変化の中、こども病院の感染管理も大きな進化をみせています。開院以来、専従看護師を配した感染管理室とICT(Infection Control Team)が職員の標準予防策を指導し、院内感染の監視とアウトブレイク阻止、そして定期院内ラウンドを実施してきました。2年前(2016年)小児感染専門医師の参加を契機に様々な感染管理の取組みが始まりました。

主な取組みは、年間300件を超える院内部署・診療科の感染コンサルテーション対応、院内発生感染症に介入するAST(Antimicrobial Stewardship Team)の活動、質量分析による迅速な起因菌の同定と主治医報告、他の小児病院同士の「感染防止対策地域連携相互チェックラウンド」の実施(今年は都立小児医療センターICTが来院)です。

これらの感染管理対策にはかなりの費用がかかります。一方、これらの取組みは、抗生剤耐性細菌を防止し抗生剤購入費を削減するなど具体的な利益(アウトカム)を生み出しています。実際、病院のカルバペナム系抗菌剤使用量が著減し(2017年は2013年の1/10以下)、同時にカルバペナム耐性菌比率が大きく低下しました。今年5月の感染対策委員会で感染管理のコストパフォーマンス評価が報告され、こども病院における感染管理の進化を見る思いがしました。

### ■ 病院理念

- ・私たちは、こどもの権利を尊重し、こどもの成長を育む心の通った医療・療育を行います。
- ・私たちは、高度で専門的な知識と技術に支えられた、良質で安全な医療・療育を行います。

### ■ 病院の基本方針

1. チーム医療、成育医療及び総合的な療育プログラムを実践し、温かい医療・療育を行います。
2. こどもの成長・発達に応じたきめ細やかな医療・療育を行い、自立の心を育みます。
3. 一人ひとりの成長・発達に寄り添い、安全で潤いのある療養・療育環境を整えます。
4. 小児医療と療育の中核施設として、地域の関係機関と連携し、患者や家族の地域での生活を支えます。
5. こどもや家族と診療・療育内容の情報を共有し、情報公開に努めます。
6. 自己評価を行い、外部評価を尊重するとともに、業務の改善や効率化を図り、健全経営に努めます。
7. 臨床研究及び人材の育成を推進し、医療・療育水準の向上に貢献します。
8. 職員の就労環境を整備するとともに、職員の知識・技術の習得を支援します。

### Contents

各診療科アピールポイント	2
院内保育所	3
部門紹介	3
地域医療連携室だより	4
拓桃園紹介	5
ボランティア紹介	6
行事予定	6
編集後記	6



当院は日本医療機能評価機構の認定病院です。



# 消化器科

副院長兼消化器科科長 虻川 大樹

消化器科は現在、虻川大樹科長、角田文彦医長（ともに日本小児栄養消化器肝臓学会認定医）、本間貴士医師、伊藤貴伸医師の4人で診療を行っています。宮城県内の小児消化器疾患患者のほとんどが当院に集中しており、隣県からも多数ご紹介いただいています。宮城県のみならず東北地方における小児消化器診療の拠点として認知されており、全国的にみても消化器疾患症例数の多い施設です。また、東北大学病院の小児科・小児外科・消化器内科など、他の高度専門病院からも小児消化器疾患に関して当院に依頼・転送される件数が増えています。その多くは炎症性腸疾患の難治例、急性肝不全などの重症度の高い症例で、生物学的製剤、血球成分除去療法、血液浄化療法、外科治療などの高度な専門的医療を実施しています。2017年10月には星雄介医師が当科から仙台市立病院小児科に異動し、救急を中心とした小児消化器疾患を当院と連携して診療する体制を立ち上げました。

2017年度の消化管内視鏡検査は計314件（上部143件、大腸103件、ダブルバルーン小腸内視鏡41件、カプセル小腸内視鏡27件）でした（図1・2）。他にも肝生検15件、上部消化管造影+24時間食道内pHモニタリング21件、内視鏡処置20件（消化管異物摘出術、大腸ポリプ切除術、吻合部狭窄に対するバルーン拡張術など）を行いました。気管・喉頭ファイバースコープも当科で施行しています。

消化器内視鏡検査件数の年次推移

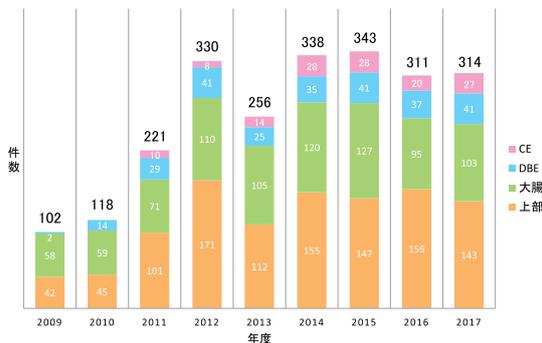


図1 消化器内視鏡検査件数の年次推移



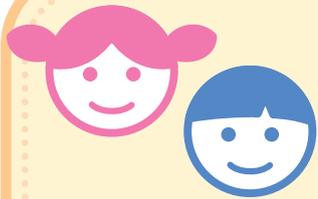
図2 上部消化管内視鏡検査

学会・研究会等での発表、講演・講義、論文作成などの学術的活動も活発に行っており、多施設共同研究や治験、厚生省研究班、診療ガイドライン作成にも数多く参画しています。2018年7月14日・15日には星陵オーデトリウム講堂において第35回日本小児肝臓研究会を主催し、全国から112名の参加者をお迎えして、熱心な討議が交わされました（図3）。

その他、消化管出血、慢性腹痛、膵炎、先天性胆道拡張症、胆道閉鎖症、機能的消化管障害、慢性機能的便秘症、体重増加不良、肥満症といった消化器・栄養に関わる患者を外来および入院で多数診療しています。小児消化器疾患に関してお困りの際は、いつでもお気軽に当科スタッフへご相談ください。



図3 第35回日本小児肝臓研究会にて  
後列右から虻川科長、角田医長、本間医師、星医師  
前列はお手伝いいただいた成育支援局の皆さん



## 院内保育所

総務課主事 佐藤 慎

宮城県立こども病院では、職員の仕事と子育ての両立を支えるため、今年4月から院内保育所「まほうのもり保育園」が開所しました。英会話、リトミックの定期的な実施やクライミングウォールの設置といった珍しい取り組みも行っております。

当園の名称は“まほうのまち”をイメージしてデザインされた本館に近接していることから名付けられました。運営会社の担当の方から「この病院だからこそ付けることができる素敵な名前ですね！」とおっしゃっていただけことが印象に残っています。

さて、当園の園庭には建設を担当した会社から寄贈された桜の樹が植えられています。まだまだ背も小さく、きれいな花を咲かせるのは何年か先となりますが、園児や保育所スタッフ、職員はまだかまだかと開花を待ちわびております。この桜に加えて、当園を利用する親子の笑顔が「まほうのもり」をこれからどのように彩っていくのか、とても楽しみです。

桜の花が色づいた際には、その様子をお伝えできれば幸いです。



まほうのもり保育園スタッフの皆さん

## 部門紹介



## 感染管理室

感染管理室室長 梅林 宏明

感染管理室は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員から構成されています。その業務は、病院内における患者さんの安全と医療の質の向上を、感染の視点から管理することです。すなわち、医療関連感染の防止、職員の安全と健康の確保、感染症診療の充実などが行動目標として挙げられます。それらを達成するため、職員に対する手指衛生や個人用防護具着用等の周知徹底、環境整備としての清掃や医療器具の洗浄・消毒・滅菌に係る指導など、その業務は多岐に渡ります。また、医療スタッフのみならず事務職員や清掃職員等にまで病原体曝露対策を施すなど、職員の健康にも配慮する必要があります。それがひいては患者さんへの健康にも繋がるからです。また、昨今の世界的な抗菌薬適正使用の動きは、よりスピード感を持った具体的数値目標を伴うものとして各医療施設に求められています。当院でも抗菌薬適正使用支援チーム(AST)を立ち上げました。今後も多職種が連携して業務を遂行していきます。



前列左から、小沼部長、森谷感染管理室看護師長、梅林感染管理室室長、桜井医長、石賀薬剤師  
後列左から、中村臨床検査技師、須田臨床検査技師、山本主任薬剤師、井上看護師長、佐藤総務課主任



# 地域医療連携室だより

## 短期入所サービスについて

当院に併設している医療型障害児入所施設「拓桃園」では短期入所サービスが利用できます。冠婚葬祭以外にも介護者の休息やきょうだいの行事への参加などに利用が可能で、年間の延べ利用者数は約600名で、年々増加し、多くの方々にご利用いただいています。定期的な利用以外に介護者や家族の体調不良時などの急な利用も含め、利用しやすい環境の整備に取り組んでいます。

**対象** 肢体不自由児・重症心身障害児の方が対象です。

- 自閉症や重度の知的障害の方は病棟の特性上受け入れが困難であるため、対象となる施設への申込をお願いいたします。
- ご利用の際には市町村が発行する「障害福祉サービス受給者証」が必要です。

## サービス内容

- 内容：食事・排泄・入浴（入浴日が該当する日）などの日常生活上の世話、健康チェック、経管栄養や導尿等の医療ケア
- 医療行為・リハビリテーションは含まれません。
- 利用期間中に医療を必要とする場合は、保険診療に切り替えて医療行為をおこなうことになります。また、その際には速やかに保護者に連絡させていただきます。



利用前面談の様子

## 利用申し込み

地域医療連携室にご相談、お申し込みください。

問合せ・面談

体験入院（一泊程度）

申し込み

利用開始

宮城県立こども病院 地域医療連携室 室長 虻川 大樹

開室時間 月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）8:30～17:00

TEL:022-391-5115(直通) FAX:022-391-5120(直通)

E-mail : tiiki@miyagi-children.or.jp

## 拓桃園 紹介



# 拓桃館3階病棟 こども・家族の生活に向けての支援

拓桃館3階病棟 看護師長 熊谷 ゆかり

拓桃館3階病棟は病床数54床で、4床部屋12室、個室6室あります。拓桃館は、児童福祉法に基づく「医療型障害児入所施設」です。また、医療法に基づく「病院」として、手足の疾患や肢体不自由児などを持つこども達に対する医療・療育を提供する機能を持っています。入所するこども達は幼児から中学生の児童を主として、整形外科・小児神経疾患のこども達です。整形外科疾患の手術・ペルテス病の保存療法・ボトックス治療や脳性麻痺、二分脊椎症など成長発達に合わせ、日常生活動作に必要な能力を最大限に引き出すために、必要なりハビリテーションの支援を目的としたこどもを多く受け入れています。

当病棟では、朝起床後、私服に着替えて食堂に集まってみんな元気に「いただきます!」の挨拶で、それぞれのスケジュールに合わせた1日がスタートします。毎日元気いっぱい支援学校登校・集団保育登園して、訓練も受けています。また、夏祭りやクリスマス会などの行事も多くあり、入所するこども達が主体的に楽しい内容を企画・実施して様々な経験をしています。

入所しているこども達は、親元から離れて単独入所をして、集団生活をしています。家庭・地域から離れての生活をするためこどもは様々なストレスを抱える場合も少なくありません。そのためにこども同士、喧嘩をすることもよくあります。また、集団生活することでお友達を心配したり、高学年・中学生が幼児や低学年のこども達の遊び相手をしたりと、思いやりの心を持てる様になり、社会的なスキルを学び成長発達をしています。私たちスタッフは、こども・家族の思いに寄り添いながら、多職種と連携を図りこどもの家庭・地域での生活に向け、個々の成長・発達に合わせたプログラムを作成して支援させていただいています。また、病棟での日常生活そのものが訓練と捉え、看護師29名・看護助手3名・クランク1名で日々頑張っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



前列左から3人目熊谷師長とスタッフの皆さん



## ボランティア 紹介



# 総合案内

## 大森 輝文

現在火曜日午前の総合案内は、3人のメンバーで共に協力し切磋琢磨しながら活動しています。私達の活動は、本館の入り口に立って①新患、再来患者さんの案内や入院患者さんの病棟への案内②入院患者さんの面会者対応③付き添いのご家族のきょうだい児預かり④貸し出し自転車の受付⑤総合案内エリアの清掃及びいす等の整理整頓⑥入院患者ご家族の荷物の一時保管⑦その他よろず承りと多岐にわたります。

私たちは皆「小さな胸に不安をいっぱい抱えてくるこども達の気持ちを少しでもやわらげる助けになりたい」という思いで接することを心がけています。

この活動を続けていく力をもらい、喜びを感じるのは、通院してくるお子さんや保護者とのふれあいや私達の声がけに笑顔で応えてくれるこども達を見る時と、良きボランティア仲間との交流があるからといえるかもしれません。今後も病院の入り口に立つ私達が「病院の顔」という自覚と使命感を持って、健康と家族の事情が許す限り、ボランティアを続けていきたいと思っています。



写真は左から浅野由美、本間裕子、大森輝文



## 行事予定

- 9月 4日(火) 第176回まほうの広場コンサート
- 9月 5日(水) お抹茶を楽しむ会(本館4階)
- 9月 6日(木) 第177回まほうの広場コンサート
- 9月12日(水) クリニクラウン訪問(本館3階)
- 9月19日(水) ミヤギテレビ杯ダンロップ女子  
ゴルフトーナメント出場選手慰問
- 9月21日(金) NTT東日本ウィンドアンサンブル  
コンサート



## 編集後記

災害レベルの猛暑が続いた、平成最後の夏。最高気温の記録更新、台風12号の珍しい進路など異常気象に関するニュースを毎日のように耳にする夏となりました。西日本においては、豪雨により甚大な被害が相次ぎました。被災地の一日でも早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、こども病院では2016年の統合後初めて、本館・拓桃館合同の夏祭りが開催されました。手作り御神輿のデザインをこども達から募集するなど、本館でも拓桃館でも準備の段階からみんなが参加できる夏祭りになりました。形の違う二つのものから新しいものを作り出す難しさを感じる準備の日々でしたが、こども達やご家族のはじける笑顔と綿あめの甘さ、夜空に広がる花火の美しさで、大変なことは全て忘れてしまいました。

広報紙「いのちの輝き」も夏祭りと同様、読んでくださる皆様楽しんでいただけるようにみんなでアイデアを出し合っていたいと思います。

(成育支援局 大塚 有希)

地方独立行政法人

## 宮城県立こども病院

〒989-3126

宮城県仙台市青葉区落合四丁目3-17

TEL : 022-391-5111

FAX : 022-391-5118

<http://www.miyagi-children.or.jp/>

## 広報委員会

委員長 田中 高志

広報委員 武山 淳二 虻川 大樹 乾 健彦 皆川 寛恵 小畑 正子  
原山千穂子 濱町友里恵 町井 祐輔 河治 賢弘 秋山 佳子  
横山麻依子 工藤 久江 大塚 有希 鈴木 敏也 高橋 礼奈  
真嶋 智彦 大槻はるか 佐藤 慎 遠藤 幸春 岩崎かおり  
藤本 尚子



環境に優しい  
ベジタブルインクと  
再生紙を使用しています。



古紙配合率100%再生紙を  
使用しています。